

【授業科目】 周産期医学 Perinatal medicine

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
朝倉 徹夫 (産科) 牧 兼正、後藤 盾信、 周山 めぐみ (小児科)	3年次 後期 4年次 前期	選 択	2	30	講義	あり	巻末 掲載	否
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要／妊娠、分娩、産褥、および新生児の生理と異常について学習し、助産診断に必要な、最新の周産期医療現場で必須の知識を習得する。異常に対する診断および治療法を理解することに加えて、思春期の月経異常とホルモン療法、更年期のホルモン療法や性感染症について学習を深める。不妊症と高度生殖医療の実際、胎児の発育・発達評価のための超音波断層法、胎児モニタリングなど、助産診断に必要な知識を学習し、助産実習に活用することができる。演習では会陰縫合術、新生児蘇生術について学び、助産実習に活用することができる。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／ 提出した課題のコメントは授業で全体の総評を行う。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<p>①正常妊娠・分娩・産褥の生理と診察法を述べることができる。 ②正常新生児の生理と診察方法を述べることができる。 ③異常妊娠・分娩・産褥の病態生理を述べることができる。 ④ハイリスク新生児への対応が説明できる。 ⑤思春期から不妊症についての知識を深め、述べることができる。 ⑥超音波診断法、会陰切開術、新生児蘇生等を学び助産学実習に活用することができる。</p>							
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>【事前学習】 第1～10回：教科書の該当頁を読んでおく(各30分)。 正常妊娠、正常分娩、正常新生児について自己学習、ノート作成、提出</p> <p>【事後学習】 第1～15回：自己学習ノートに整理しまとめる。学んだ知識を助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで活用できるよう工夫する。(各30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 正常妊娠 妊娠の成立から妊娠により引き起こされる母体の変化 胎児の発育 正常妊娠の経過診断</p> <p>第2回 異常妊娠－1：妊娠悪阻、切迫流産、過期産、異所性妊娠、絨毛性疾患等</p> <p>第3回 異常妊娠－2：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂等</p> <p>第4回 妊娠合併症：TORCH 症候群、DM、甲状腺機能異常、血液疾患、自己免疫疾患、 婦人科疾患、感染症、心疾患等</p> <p>第5回 環境因子と妊娠、生殖補助医療、遺伝：環境因子(栄養・化学物質・薬剤)が妊婦・胎児の健康に及ぼす影響と染色体異常について</p> <p>第6回 正常分娩</p> <p>第7回 異常分娩：胎位の異常、娩出力の異常、回旋の異常、多胎分娩等</p> <p>第8回 産科手術・救急について－1：帝王切開、吸引分娩、分娩促進法など</p> <p>第9回 周産期における超音波診断法</p> <p>第10回 異常産褥</p> <p>第11回 産科手術(縫合術を含む)・救急について－2：縫合術含む</p> <p>第12回 正常新生児の診察法・新生児異常とその対応</p> <p>第13回 ハイリスク新生児とその対応－1(低出生体重児含む)</p> <p>第14回 ハイリスク新生児とその対応－2(新生児蘇生、新生児挿管を含む) NCPRAコースの資格を取得する。</p> <p>第15回 新生児医療のトピックス：乳児の健康診査、予防接種含む</p>							<p>(産科) 第1回～11回 朝倉</p> <p>(小児科) 第12回～15回 牧、周山、 後藤</p>
評価方法 評価基準	<p>定期試験80%、自己学習ノート提出20% NCPRAコース 資格試験の合格</p>							
教科書	<p>荒木 勤：最新産科学正常編、文光堂 荒木 勤：最新産科学異常編、文光堂 細野茂春：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく 新生児蘇生法テキスト(第4版) MEDICAL VIEW社</p>			<p>参考書等</p>		<p>助産学講座1-10 医学書院 仁志田博著『新生児学入門』医学書院</p>		
学生への 助言等	<p>助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。助産診断を行う上で必要な知識です。しっかり理解し覚えて下さい。</p>							